

北里大学病院骨バンク組織移植コーディネータの活動

笠原みどり*

北里大学病院骨バンクは、1971年北里大学病院開院と同時に設立され、日本組織移植学会が作成した「ヒト組織を利用する医療行為の倫理的問題に関するガイドライン」、「ヒト組織を利用する医療行為の安全性確保・保存・使用に関するガイドライン」および日本整形外科学会が作成した「整形外科移植に関するガイドライン」、「冷凍ボーンバンクマニュアル」を遵守し、生体および非生体からの骨・靭帯組織の採取・処理・保存・供給を行っている。北里大学病院骨バンクでは、より安全で良質の骨・靭帯組織を供給するために、2001年から骨バンク専任の組織移植コーディネータを任用している。北里大学病院骨バンクの組織移植コーディネータは、生体および非生体からの骨・靭帯組織の採取・処理・保存・供給のコーディネーションを行うとともに、院内外での組織移植に関する啓発活動を行ってきた。また東日本組織移植ネットワークの一員として活動し、神奈川県、東京都、千葉県、静岡県東部で、東日本組織移植ネットワーク、日本臓器移植ネットワーク、アイバンクと連携のもと、組織のコーディネーションも行っている。

日本組織移植学会は組織移植医療の水準を向上させ、国民の福祉に貢献することを目的として2005年に日本組織移植学会認定コーディネータ制度を発足した。そこで北里大学病院骨バンクの組織移植コーディネータもこの認定コーディネータ試験に合格し、認定組織移植コーディネータとして活動している。また2006年4月には北里大学病院に移植医療支援室が設立され、骨バンクの組織移植コーディネータも移植医療支援室の一員として院内の移植医療体制整備などの活動も行っている。

1. 北里大学病院骨バンクにおける組織移植コーディネータの業務

北里大学病院骨バンク組織移植コーディネータの業務には以下のものがある。

1) ドナー情報の収集

非生体ドナー情報への対応は、院内のみではなく、東日本組織移植ネットワークからの指示で、いつでも連絡が取れる体制を作っている。コーディネータの到着予定時間や、提供病院への依頼はすべて確認しながら調整をし、常に提供病院との連絡が取れるような状況で活動している。提供病院到着後は、主治医から現在の状態や治療内容、家族背景、検視の必要性などを確認し、情報は東日本組織移植ネットワークと骨バンクメディカルディレクタに連絡し適応判断を仰いでいる。

*北里大学病院 看護部 移植医療支援室・骨バンク 組織移植コーディネータ

院内での情報は、まず院内ドナー移植コーディネータが対応し、初期情報収集と家族の説明希望を確認した後、骨バンク組織移植コーディネータに連絡が入り、協力してコーディネーションを行っている。

2) 組織提供についてインフォームド・コンセントの実施

家族の心情を配慮しながら、提供に対する考え方や死生観を引き出せるよう説明し、家族の気持ち・決断を導き出すことを援助する。十分な説明を行い家族の不安や疑問はないか、家族の意思が総意としてまとまっているか、家族の話し合う時間が確保できているかに注意しながら、組織提供の意思を確認する。

3) 摘出チームの派遣

提供施設に負担をかけないように院内調整を行い、各組織バンクの動きを統括する。骨・靭帯組織承諾後は、整形外科骨採取医に連絡し必要器材の搬送と出勤を依頼する。

4) 骨・靭帯組織摘出介助

骨・靭帯組織摘出術介助を行い、摘出組織の状態と保存を確認する。ご遺体はきれいに整え、家族への配慮を行う。家族の意思が尊重できたことを確認する。

5) プロセッシング(骨・靭帯組織の加工・処理)

摘出した骨・靭帯組織は、 -80°C のフリーザで保存したのち、医師または訓練を受けた技術者により骨・靭帯組織の処理・保存が行われる。処理終了・包装前にスワブで細菌培養検査を行い、組織は気密性のプラスチックバックを使用し脱気した状態で3重包装し、プロダクトナンバーを記載し製品化する。各組織の写真撮影、レントゲン撮影および大きさ、重量の測定を行い、細菌培養検査結果とあわせてデータシートに記入する。

6) シッピング(良質で安全な同種骨・靭帯組織の供給)

シッピングの連絡調整は組織移植コーディネータが行い、手続きの説明、必要書類の確認、シッピング審査委員会の開催等を行っている。公平なシッピングを行うために、外部施設の医師も含めたシッピング審査委員会を実施している。

7) 情報管理(ドナー情報、レシピエント情報)

骨バンク保管庫は監視カメラが設置されており、個人情報保管庫で厳重に施錠管理され、すべての加工した組織は、プロダクトナンバーで登録されている。

採取・保存された組織によって、感染症や悪性腫瘍などの疾患が伝播されないよう、既往歴、海外渡航歴、血液検査等でドナーを評価し、移植後も、継続したレシピエント調査を行っている。

8) 骨バンク施設の管理

2008年には厚生労働省組織バンク設備整備事業を受け、骨バンク内にクリーン度の高いプロセッシングルームが完成した。このプロセッシングルームのメンテナンスとクリーン度の管理も組織移植コーディネータの重要な業務のひとつである。

2. 日本組織移植学会における北里大学病院骨バンク組織移植コーディネータの業務

骨バンク組織移植コーディネータは、日本臓器移植ネットワーク、組織移植ネットワークとの連携の下、24時間体制で神奈川県、東京都、千葉県、静岡県東部で発生したドナーの対応にあたっており、より円滑なネットワークの構築、コーディネーションを行うために定期的に症例検討会やネットワークの会議に参加している。また、セミナーの開催、組織移植コーディネータの認定、教育などコーディネータの育成にも協力している。

以上のように北里大学病院骨バンク組織移植コーディネータの活動は院内や他施設にわたり、昼夜を問わない活動を展開している。現在は組織移植コーディネータ2人で対応しているが、今後組織移植コーディネータの育成と増員によって、24時間対応のドナー情報に対しても、シフトを組んで交替勤務が出来るようなシステム作りが早急に必要であると思われる。